

番号	27	昭和28年水害(28水)実績浸水深		
所在地		唐津市相知町相知 唐津市相知市民センター		
災害別		昭和28年(1953) 水害(28水)		
目的別		その他	建立年	平成30年10月
特記事項				



唐津市相知市民センターの玄関入口に掲示されている昭和28年6月水害、通称28水当時の浸水深の表示。実績浸水深2.0mと表示されている。唐津市立相知中学校と記されており、生徒たちの手によるものであろう。こうした取り組みは、生徒たちに地域の水害リスクをわかりやすく伝えるとともに、日ごろの備えを促す有意義な取り組みであると思う。

また、浸水深の表示に合わせて、「自然と暮らしを考える研究会」提供による当時の被害の模様を使える写真も掲示されている。

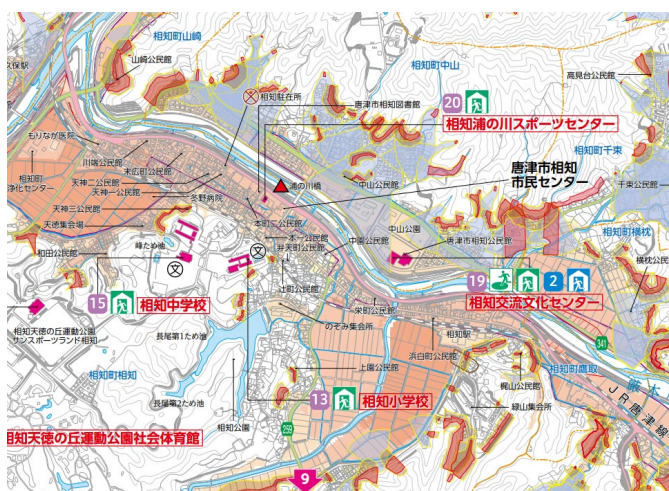
「相知町史」(下巻 S51,3,31 発行)によると、この大雨で厳木川の堤防が決壊、「相知宿通りでは、旧役場、旧警察署を残して全町水浸し」となり、また、「山崎方面では、松浦・厳木両河川の水溜り場となり、住民は刻々に増水する中に危うく身を以ってのがれる有様」で、相知町では、「堤防決壊五十カ所 橋梁流失十五カ所 家屋

流失十七戸 家屋全壊十三戸 家屋半壊三十六戸 家屋床上浸水六百三十四戸」など、その被害が、県下で最も甚だしかったと記されている。



なお、現在の庁舎は昭和37年に新築移転されたもので、28水時にはこの場所に建っていない。しかし、現在の庁舎を含め、町の中心部は、厳木川の堤防よりかなり低くなっており、万が一、厳木川や厳木川と合流する松浦川が氾濫すれば、大きな被害があると想定される。実際、唐津市のハザードマップによれば、相知市民センター付近は、3m以上5m未満の浸水

想定区域になっており、市民センターの玄関入口に掲示されている昭和28年6月水害の際の水位よりかなり高くなることが想定されている。



唐津市ハザードマップ（相知町）



国土地理院電子国土 Web



厳木川